

## わがまち一番

### ～五個荘築瀬町「ふれあいサロン」・「いっぷくサロン」～

**五個荘築瀬町**は、人口778人、318世帯で、高齢化率約35.76%の自治会である。築瀬町の「わがまち一番」であるふれあいサロンは、平成8年（1996年）に開始され、その歴史はおよそ四半世紀になる。平成30年（2018年）の秋からは、「いっぷくサロン」が開始され、「ふれあいサロン」と共に築瀬町の財（たから）である。

#### 1. ふれあいサロンの概要

五個荘築瀬町（以下、築瀬町）の自治会館は「報徳館」という。昭和17年（1942）に「福岡松屋」初代社長の宮村吉蔵氏が、宮村氏の先祖の敷地跡に建築・寄贈したもので、戦前から「築瀬町民集会所」として使用されていた。

老朽化がすすみ、平成28年（2016）に多くの方の協力で新たな「報徳館」が完成した。

報徳館の向かいにある、五個荘地区まちづくり協議会が設置した「わがまち一番」の看板には、「ふれあいの町 築瀬」として、ふれあいサロンが開催される築瀬町の「奉仕精神土壤」を「子孫に残さなければならない財産」と紹介している。



「わがまち一番」の看板

現在、ふれあいサロンを運営する担当は、築瀬町の「民生福祉部」で、メンバーは10名である。

参加対象は78歳以上の方である。78歳となった理由は、建て替え前の報徳館に入れる人数が、78歳以上の方の人数であったからという。

現在は年間8回開催で、参加費は昼食代として400円を参加者負担としている。みんなで合唱したり、レクリエーションを楽しんだりしてひと時を過ごす。

季節行事もあって、小学校1年生から3年生の子どもたちと一緒に、7月には七夕飾りづくりを、12月にはクリスマスイベントで子どもたちの好きなメニューと一緒に食べる。

ふれあいサロンの参加者は、毎回30名ほどで、このうち男性は10名ほどである。

ふれあいサロンの食事づくりで活躍するのが



報徳館



色とりどりの七夕飾り

築瀬町のボランティアグループ「ふらいぱん」である。

「ふらいぱん」は、旧五個荘町時代に、独居高齢者の方等に食事を配達する「配食サービス」のボランティアとして活躍していた方々が結成したボランティアグループで、ふれあいサロンの食事作りを担っている。

「ふらいぱん」には10名ほどのボランティアがいて、報徳館の厨房で腕を振るう。メンバーは健康推進員のOBなどで、常に10名程度の人数で活動できるようにしているという。

## 2. いっぷくサロンの概要

築瀬町のもう一つのサロンが「いっぷくサロン」である。いっぷくサロンは、民生委員・児童委員の猪田悦子さんが、平成30年（2018年）の秋から始めた。

65歳以上の方を対象に、毎月第4水曜日の午後2時から午後4時くらいまでの2時間程度



bingoゲームで盛り上がる

開催する。お休みの月もあり、年間10回の開催である。

いっぷくサロンの参加費は、お茶代100円である。

茶話会形式で、参加者に会場設営や後片付け等を手伝ってもらう。猪田さんの他に3人の福祉委員と1人のボランティアがスタッフとなり、和気あいあいとしたひと時を過ごす。

毎回15名～25名の方が参加する。男性の参加は余りないそうだ。

## 3. 再び「わがまち一番」を

コロナ禍でふれあいサロンは中止に、いっぷくサロンは7月に1度再開したが、そのあとは中止になった。毎年、盛大に長寿を祝う敬老会も今年は中止になった。

自治会長の宮村明和さんは、「今年は築瀬町の風景が変わってしまいました」と話す。

ふれあいサロンが開催できないなか、猪田さんは、五個荘地区社会福祉協議会の独居高齢者等見守り訪問事業の対象者数を9名から15名に増やした。

サロンで出会う独居高齢者の方や高齢者のみ世帯の方を訪問し、お話をするためである。猪田さんは、訪問するとみなさん喜んでくださるという。

築瀬町の誇る「わがまち一番」が一日でも早く再開できるよう、そして、「報徳館」が築瀬町のみんなの笑い声で包まれる日が一日でも早く来るよう願う日々である。



ふれあいサロンを開催する広間